

混合技法について

水と油が交わる混合技法

混合技法は絵画制作に用いられる技法のひとつです。一般的には、「水性」のテンペラ絵具と「油性」の油絵具を併用する技法のことを指しています。この技法の特長は、テンペラ絵具の不透明で明るい性質と油絵具の透明で暗い性質をひとつの画面内で利用できることです。でも、水と油は交わらないのが自然のルール。油性絵具の上に水性絵具で描くというのが、絵を描く人が最初に教えらるるタブーです。なぜ、混合技法は可能なのでしょうか。

鍵を握るメディウム

テンペラ絵具は通常、卵メディウム(卵黄・卵白に乾性油、ワニス、防腐剤を加えたもの)を用います。卵黄にはレシチンというリン脂質の一種が含まれていて、これには水溶性の物質と油性の物質の仲立ちをする界面活性作用があります。基本的に水と油は交わりませんが、レシチンのおかげで、テンペラ絵具は水を含ませた筆で自由に操作できるようになるわけです。卵メディウムは水分が蒸発すると、蛋白質、卵油、レシチン、乾性油、油性樹脂の混合物になります。これは油絵具の組成に限りなく近いものです。

油絵具は調合溶き油で溶きます。調合溶き油の成分は揮発性油、乾性油、ワニスですが、ワニスを多く用いるのが特徴です。ワニスが多いと画面にベタツキを感じますが、この上にテンペラ絵具を乗せると水分が乾燥後、両者はしっかりと接着します。テンペラ絵具と油絵具の相性がいいのは、どうやら卵メディウムの特性と組成にあるようです。

油絵具とアクリル絵具の混合技法も可能ですが、油絵具の上にアクリル絵具で描くことはお薦めできません。乾燥後のアクリル絵具

はアクリル樹脂のかたまりで、油絵具と組成が大きく異なるからです。アクリル絵具と油絵具、テンペラ絵具と油絵具の関係は、「自然界における接着は、異質のもの同士は相性が悪く、同質のもの同士は良好な結果を得る」という定理を証明しています。

ハッチングとグレース

「明るい」と「暗い」「不透明」と「透明」といった、相反する性質を生かす手法を2つ紹介しましょう。ひとつは油絵具やテンペラ絵具を塗った有色下地(明度は5程度に抑える)の上に描画し、光の部分をテンペラ絵具の白い線で描く手法です。線をつめれば有色下地が隠蔽されて「明部」となり、線の間隔を開ければ下地がのぞいて「暗部」を表現することができます。これは白色浮き出しと呼ばれています。もうひとつは油絵具の透明性を利用する手法です。有色下地やテンペラ絵具の上に油絵具を塗ると、テンペラ絵具の白の部分に色彩が生まれ、有色の下地はさらに深い「暗部」になります。これはグレースと呼ばれる技法で、油絵具の透明性を生かした色出し法です。

下地

混合技法の場合、最初の色置きは水性のテンペラ絵具に頼ることが大きいものですから、下地はテンペラ絵具になじみのよい吸収性あるいは半吸収性のものを使います。非吸収性のものを用いるとテンペラ絵具の定着が弱くなるので、気をつけましょう。



ダンマル ワニス



サンシックド
リンシードオイル



防腐剤

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.072 (985) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)



ホルベイン絵具